

# Ⅳ－17

## 地方都市整備における市民意識の変容について

秋田大学 正 員 清水浩志郎  
秋田大学 正 員 木村 一裕  
秋田大学 学生員 ○ 金子 光裕

### 1. はじめに

快適な生活空間の創造には、そこに住む住民の意識を適切に反映させた整備が必要である。

秋田市では現在、若年層の市外流出により人口が伸び悩み、若者の定着が社会的にも望まれている。

そこで本研究では、秋田市民を対象に行なった「まちづくり及び生活環境改善のためのアンケート」をもとに、秋田市の住民の生活環境に関する意識を定量的に把握し、さらに昭和54年に行われた同様の調査結果との比較により市民の意識の変化を知ることがを目的としている。

### 2. 調査概要

平成2年12月に、無作為に抽出した秋田市在住の20歳以上の市民5000名を対象として、郵送配布・郵送回収によるアンケート調査を実施した。回収した調査票の有効回答数は2307票で、有効回答率は46.1%であった。

秋田市の人口は301,018人（平成元年）であり、県内最大の都市として、また、政治、商工業の中心都市として一極集中がいわれている。しかし、全国からみると高速交通体系に乗り遅れ、人口は伸び悩んでいるのが現状である。

### 3. 調査結果と分析

今回の調査は昭和54年に行なわれた調査と比較し市民意識の変化を把握することが目的である。そこで、表－1に示す生活空間についての33項目について調査し、「満足」、「普通」、「不満」の3つのカテゴリーに分類した。その後、調査結果の比較のために、「不満」について標本比率の差の検定を危険率5%で行なったところ、28項目に有意差がみられた。有意差が認められた項目の中で「不満」が減少している項目が多いことから、総合的に秋田市の生活空間は、前回調査時点よりも暮らしやすくなったと評価できる。

表－1 標本比率の差の検定

| 分 類   | 質 問 項 目                 | 有意差 |
|-------|-------------------------|-----|
| 自然環境  | 1. 空気のきれいさについて          | ○   |
|       | 2. 河川のきれいさについて          | ○   |
|       | 3. 緑の量について              | ○   |
|       | 4. 雪のある暮らしについて          | ○   |
| 生活環境  | 5. 日当りにについて             | ●   |
|       | 6. 風通しについて              | －   |
|       | 7. 家のたてこみ具合について         | －   |
|       | 8. 病院などの医療施設について        | ○   |
|       | 9. 買物の便利さについて           | －   |
|       | 10. 買物店の種類と品数の豊富さについて   | ○   |
|       | 11. 日常買物店の価格について        | ○   |
|       | 12. 消費生活面からみた暮らしやすさについて | ○   |
|       | 13. 子供の遊び場所の安全性について     | ○   |
|       | 14. 子供の遊び場所の豊富さについて     | ○   |
|       | 15. 幼稚園・保育所などの充実度について   | ○   |
|       | 16. 老後の生活を快適に送るまちとして    | ●   |
| 都市環境  | 17. 下水道の整備状態について        | ○   |
|       | 18. し尿の処理状態について         | －   |
|       | 19. ゴミの回収について           | ○   |
|       | 20. 都市カスの整備状態について       | ○   |
|       | 21. 自動車による騒音・振動について     | ○   |
|       | 22. 工場による騒音・振動について      | －   |
|       | 23. 工場などの出す臭いについて       | ○   |
|       | 24. 公園の充実度について          | ○   |
|       | 25. 自宅周辺の道路の舗装状態について    | ○   |
|       | 26. 自宅周辺の道路の街灯の明るさについて  | ●   |
|       | 27. 自宅周辺の道路の安全さについて     | ○   |
|       | 28. 自宅周辺の融雪及び除雪の状況について  | ●   |
| 文化 娯楽 | 29. 映画館等娯楽施設について        | ●   |
|       | 30. 公民館などの公共施設について      | ○   |
|       | 31. 体育館 グランドなど運動施設について  | ○   |
|       | 32. 図書館など文化施設について       | ○   |
|       | 33. レクリエーション活動に親しむまちとして | ●   |

○ 10年前と比較し不満が減少したもの  
● 10年前と比較し不満が増加したもの  
－ 10年前と比較し有意差がないもの

#### （1）自然環境について

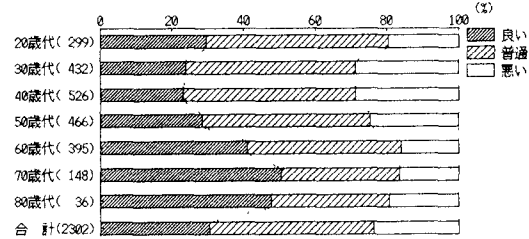
自然環境についての質問では78.6%の人が「良好である」と回答している。これはS54からS63までの10年間に79.1ha（S54比142%）の公園や緑地が整備され、身近に自然とふれあえる場所が増加したことへの評価の現れであると考えられる。

#### （2）生活環境について

『老後の生活を快適に送るまちとして』では、前回調査で「悪い」が13.1%であったが、今回は23.5%と悪化している。これは、核家族化（S54:3.21人

/世帯，H1：2.93人/世帯）にともない，高齢者の夫婦・単身世帯が増加しているためであろう。

また『老後を快適に送るまちとして』に関する評価を年齢別にみると，年齢が上がるほど「良い」評価が高くなっており，高齢者自身にとっては住みやすい環境であることがわかる（図－1）．『高齢化社会に向けての施策』については，「健康管理や福祉が充実したまちづくり」が強く望まれている。

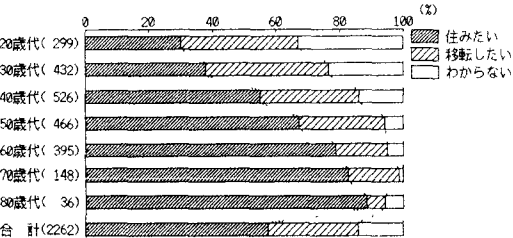


図－1 老後の生活を送るまちとしての評価  
(3) 都市環境について

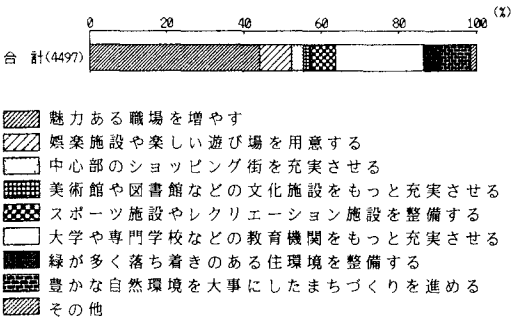
都市環境については『自宅周辺の道路の街灯の明るさについて』，『自宅周辺の融雪及び除雪の状況について』に関する評価で「不満」が増加している。年代別では若い人ほど「不満」の評価の割合が高い。

(4) 文化・娯楽について

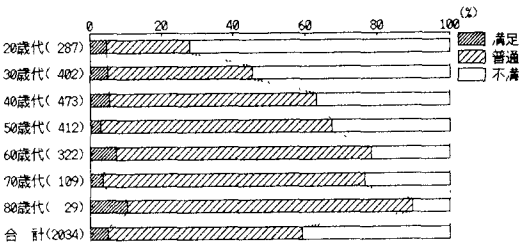
他の地方都市同様，秋田でも若者の大都市圏などへの流出が問題となっている。図－2は定住意識に関する評価である。全体では過半数を超えており，定住志向が強いことを示しているが，年齢別にみると，若い年代ほど「よそに住みたい」と考えていることがわかる。また，図－3は若者の定着に必要な施策について示したものである。



図－2 定住意識に関する評価



図－3 若者の定着に必要な施策について



図－4 映画館等娯楽施設の満足度の評価

「魅力ある職場を増やす」，「大学や専門学校などの教育機関を充実させる」というようなことが高い割合を示している。また，文化・娯楽施設の充実も望まれている。

図－4は『映画館など娯楽施設について』の評価を示している。年齢が若いほど「不十分」と考える割合が高いことが注目される。しかし公共施設等は整備が進んでおり，表－1からわかるように「不満」は減少している。つまり，これらのことは，人々の趣味の多様化にソフト面の対応が不十分であり，改善の余地があることを示している。

4. おわりに

本研究は，秋田市における住民の生活環境に関する意識を10年前の調査と比較・検討し，市民の意識の変化を知ることが目的として行った。

その結果，秋田市の生活環境は，日常の生活は満足であると考えられているが，特に文化・教育に関しては不満足であると考えられていることがわかった。したがって，今後は魅力ある職場の増加や教育施設の充実をはかり，若者にとっても魅力のあるまちづくりをすすめて行くことが望まれる。